



革新的な心理学者、哲学者  
ユージン・ジェンドリン 死去 90 歳

2017 年 5 月 1 日 ニューヨーク スプリングバレーにて

1926 年 12 月 25 日—2017 年 5 月 1 日

「フォーカシング」と呼ばれるところとからだの連関に関する実践を開発した、アメリカの哲学者であり心理学者であるユージン・T・ジェンドリンが 5 月 1 日、ニューヨークのスプリングバレーにて 90 歳の生涯を終えた。フォーカシングの実践やその背景にあるジェンドリン博士が「暗在の哲学(Philosophy of the Implicit)」と呼ぶ哲学を広めるために 1985 年に彼自身の手で設立された、国際フォーカシング研究所 ([www.focusing.org](http://www.focusing.org))によって彼の死は報じられた。フォーカシングは気づきや情緒的な癒しを生み出すための体験的でからだを重視する方法である。ジェンドリンの哲学は現象学と呼ばれる哲学の分野に分類される。彼の哲学研究は、エド

ムント・フッサール (Edmund Husserl) やジャン＝ポール・サルトル (Jean-Paul Sartre)、モーリス・メルロ＝ポンティ (Maurice Merleau-Ponty) の影響を大きく受けている。彼の業績については、国際フォーカシング研究所が管理するジェンドリンオンラインライブラリ ([Gendlin Online Library](#)) にほぼ網羅されている。

### 心理学と哲学、学術的セルフヘルプと一般向けの橋渡しをしたジェンドリンの功績

ユージン・ジェンドリンの功績については、いかに哲学と心理学の橋渡しをしたかということはもちろん、本格的な学術研究を一般向けのセルフヘルプと結び付けたことも特筆すべき点であった。彼は世界有数の学術機関であるシカゴ大学で哲学を学び、教鞭をとっていた。哲学研究に従事する間、彼はシカゴ大学で心理療法に関する研究を革新し続けていた著名な心理学者の一人であるカール・ロジャーズ博士 (Dr. Carl Rogers) の学生かつ同僚となった。

ジェンドリンの非凡な知的才能は彼の並々ならない人への思いやりと調和した。彼が大学で進めていた研究が一般の人にとって難解であることを知ると、彼は自分の発見が学術分野の中だけで埋もれてしまわないように、一般向けのセルフヘルプの本としてフォーカシングを執筆した。このような多大な思いやりの一部は、おそらく、彼がユダヤ人としてナチスのオーストリア占領から逃亡していた経験によるものだろう。彼は自身の家族のナチスからの逃亡について逃亡から数十年後にロア・コーベイ (Lore Korbei) とのインタビューの中で語っている。そのインタビューは [https://www.focusing.org/gendlin/docs/gol\\_2181.html](https://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2181.html) で公開されている。

### 学術的賞

ジェンドリン([Gendlin](#))はアメリカ心理学会 ([American Psychological Association \(APA\)](#)) による賞を 4 度受賞している。最初の受賞は、APA のその年の際立った心理学者に贈られる賞である。2008 年にはヴィクトール・フランクル家財団によるヴィクトール・フランクル賞([Viktor Frankl prize](#))を受賞している。2016 年には、パーソンセンタードおよび体験的心理療法・カウンセリング国際学会([World Association for Person Centered and Experiential Psychotherapy and Counseling](#))から特別功労賞を、加えてアメリカ身体心理療法学会([United States Association for Body Psychotherapy](#))からも特別功労賞を受賞している。

ジェンドリンは、学術誌である心理療法：理論、調査および実践(*Psychotherapy: Theory, Research and Practice*)だけでなく、国際フォーカシング研究所のフォリオ([Folio](#))と呼ばれる雑誌の編集者でもあり、フォーカシング指向心理療法([Focusing-Oriented Psychotherapy: A Manual of the Experiential Method](#))など多くの書籍の執筆者でもあった。多く出回り彼の代表的な傑作であるフォーカシング([Focusing](#))は 17 の言語に翻訳され、50 万部以上の売り上げとなっている。

### 心理学における初期研究

彼は 1950 年代、来談者中心療法を創始したカール・ロジャーズ([Carl Rogers](#))の下で学び、1958 年にはシカゴ大学から哲学の博士の学位を取得した。ジェンドリンの理論はロジャーズ独自の信念に影響を与え、ロジャーズの心理療法の見解の一役を担った。(参照：<http://www.focusing.org/multimedia/carl-rogers.asp>) シカゴ大学のロジャーズの指導の下で、ジェンドリンは最初の心理学におけるアウトカム研究([outcomes studies](#))の一つを展開した。

1985 年、シカゴ大学カウンセリングセンターで 2 人の心理学者(カートナー Kirtner とカートライト Cartwright)が数名のクライアントについてどのようにクライアントの問題を初回のセラ

ピーセッションで表現するのかを特徴づけた。それらの特徴を元に、彼らはクライアントを 5 つのタイプに分類した。彼らはそれらの類型がセラピーの長さや成功するか否かの両方を予測することを見出した (Kirtner & Cartwright, 1958)。たとえば、24 人のクライアントを対象に彼らはその 5 つの類型の中の最初の 2 つのタイプのクライアントは全員セラピーが成功裡に終わること、最後の 2 つのタイプのクライアントは全員セラピーが不成功であったことを見出した。つまり、セラピーの初期のクライアントの応答様式の特徴によって、セラピー終結時の結果が予測できるということを見出したのであった。

この研究は多くの重要な論点を提起した。たとえば、不成功におわる傾向にあるクライアントは最初のセッションの後セラピーを継続すべきかどうか、あるいは、そうしたクライアントはセラピーを成功させるためにある特定の介入を必要としているかどうかといったことである。セラピーにおけるクライアントの応答様式や、それに対して提起された論点の重要性はジェンドリンやその同僚らがまた別の系統の研究を通して再発見するまでは気づかれないままであった。

### 哲学における初期研究

1950 年代半ば、ジェンドリンは概念と暗在的な理解(当時は前概念的な感じ **preconceptual feelings** と呼んでいた)の間関係を研究するシカゴ大学の哲学専攻の大学院生であった。

ジェンドリンが当時すでに考案していた哲学は、意識(**consciousness**)は暗在的に理解していること(**implicit understanding**)を概念化する(**conceptualizing**)絶えざるプロセスであることを示唆していた。たとえば、“犬(**dog**)”という単語は、ある特定の種類の動物との多くの経験を(自然と想起されることも含めて)暗に照合させる。そうでなければ、その言葉は何も意味することはないだろう。“犬がボールを追う(**the dog chased the ball**)”というような文章で、それぞれの単語は象徴化されていない経験(**unsymbolized experience**)を暗に含んでいたり照合させたりし、

そのため私たちはそれぞれの単語が意味していることを暗に知り、そしてその文章が何を意味しているのかも暗に知る。

私たちは明在的に(explicitly)文章中の単語について考えることができるが、私たちがその文章の意味について考えることをやめたり、特定の単語の意味について考え始めたりする場合でさえも、その単語の明在的な定義はそれでも暗在的な理解に依拠している。上記の文章も、私たちは“犬(dog)”という単語を明在的に定義する(“犬は哺乳類でよくペットとして飼われている”といったように)ことはできるが、私たちの定義したその単語はまた別の象徴化されていない経験に照合されている。意味していることはいずれも明在的にされうるが、他の暗在的な経験に照合することによってのみ可能となる。

同様に、私たちが問題について考えているとき、私たちは多くの象徴化されていない経験を暗に照合する明在化の定式から始まる。私たちは象徴化されていないことを問題や状況についての“感じ(feel)”として体験し、この“感じ”に導かれて私たちはこの象徴化されていない状況が解決されるまで(明在的にしたり明示したりして)象徴化する。

### 哲学と心理学の間の架け橋

ある種の哲学者とは違って、ジェンドリンはこの関係性についてただ考えたということではない。彼は経験が概念化される実際のプロセスにいる人たちを観察したいと思い、心理療法がそのためには適当な場であると考えた。そして、哲学専攻の大学院生でありながら、シカゴ大学のカウンセリングセンターで心理療法家としての訓練を思いがけず受け始めることになった。

セラピーを受けるクライアントはある問題について概念的に語ることを見出せるのではないかとジェンドリンは期待し、それができればクライアントの問題についての語りはまだ概念化

されていないある暗在的な理解に依拠していると理解できると考えた。そうした暗在的理解を語る上で、人はさらにまだ概念化されていないまた別の暗在的な理解に依拠していることに気が付くだろう。このようにして、クライアントの語りは絶えずクライアントの暗在的な経験に照合され、そうしていると、当初の問題についての深い理解や解決に絶えず導かれることとなる。

ジェンドリンの研究は、心理学的変化は人の内的な感じられた経験に注意を向けそれに沿っていくプロセスとして理解されることを鮮明に伝えている。心理療法のポジティブな変化を持続させるためのクライアントの能力(ability)は、クライアントがセラピーに来談する契機となった問題についての非言語的で身体的な感じにアクセスする能力によるということ、ジェンドリンは示したのである。ジェンドリンはこの直観的なからだの感じ(intuitive body-feel)を“フェルトセンス”と呼んだ。彼は成功するクライアントがどのようにフェルトセンスにアクセスするのか、フェルトセンスを言語化するのかを研究し、人々にその方法を教えるためにフォーカシングを開発した。1987 年、ジェンドリンはベストセラーとなる著書、フォーカシングを出版し、自己啓発のためにフェルトセンスをつかみそれを表すための 6 ステップ法を提示した。

ジェンドリンは学術的かつ専門家のコミュニティーとするためにフォーカシングをトレーニングしたり教えたりすることを促すフォーカシング研究所を 1985 年に設立し、その実践を一般の人々と共有した。2016 年には国際フォーカシング研究所と改名された。

### ジェンドリンの心理学とセルフヘルプの関連性

世界有数のフォーカシングティーチャーの一人であるアン・ワイザー・コーネル博士は次のように言っている：

ジーン・ジェンドリンと彼のフォーカシング・プロセスのおかげで、世界中の何十万人もの人々が主に心理療法で見出された情緒的な癒しのための支援を自分や他の人に提供することができるようになった。ジーンはからだで見出される生の方向性について内側に向けて耳を傾けることを誰もが学なぶことができる方法としてフォーカシングを開発し、また、人々が自分自身やパートナー、コミュニティに自分で情緒的な癒しをもたらすことができるようになると思っていました。そのため、当初より彼はフォーカシングを学びたいという人は誰でもフォーカシングを教え、その人たちがフォーカシングを広めていくことを奨励した。このような原点が、受容に基づくポジティブな変化のための相互支援や、全ての生き物に見込まれる希望的展望についての世界規模の草の根運動へと発展させることになった。

シアトル大学の心理学の教授であり、国際フォーカシング研究所の評議委員でもあるケビン・クライカ博士 Dr.は次のように言っている：

カール・ロジャーズとの仕事の影響を受けて、ジーン・ジェンドリンは人が自分の経験を探究する場としてだけでなく、他者や自分を取り巻く世界との密接なつながり確かめる革新的な場として心理療法を推し進めた。

フォーカシングは結論や判断に急ぐ私たちの傾向と相対するものである。また、私たちは基本的には他者との相互作用であるために、自分自身の個人的目的のために人を道具として見なすことにもフォーカシングは相対します。経験は常に相互作用であり、そのため苦悩は決して単なる個人的な現象ではない。常に暗に共有されている。フォーカシング指向心理療法家は、心理療法の中で起こる癒しが、繋がりに気付くことから隔絶された経験から人を回復させることを知っている。

ジェンドリンは哲学や心理学における“エンボディメント(embodiment)”の先駆者である。

ジェンドリンは著書『フォーカシング([Focusing](#))』で次のように論じている：

私が「からだ」という単語を使う場合、私は身体的な機構以上のことを意味している。人は身の回りの状況を身体的に生きているだけでなく、こころの中で考えていることも含まれる。人が身体的に感じているからだは、実際にはここや他の場所、今や他の時々、自分や他人といった多くのシステムの一部であり、宇宙全体である。広大なシステムの中での身体的な生の感覚はからだであり、内側から感じられるものである。

### ジェンドリンの哲学との関連性

ジェンドリンは第一に、そして何より自身は哲学者であると自認し、厳格な哲学的視点を心理学に持ち込んだ。彼のアプローチは彼の初期の著書である体験過程と意味の想像 ([Experiencing and the Creation of Meaning](#)) で著されており、のちには生の過程の難解な機能に関する包括的な理論へと展開された。彼の考えは最高傑作であるプロセスモデル(*A Process Model*) で最も十分に表現され、近日 [Northwestern University Press](#) から出版される予定である。

ジェンドリンは環境問題や多文化問題を含む、多くの社会問題へ挑戦するために適用される思考方法を考案し、社会問題に哲学を持ち込んだ。彼はからだとこころで思考する意味が何かを実証することによって、20 世紀初頭の哲学に多くみられる二元論的思考を克服しようとした。彼の哲学の学生らは、人が体験的で身体的な背景や論理を取り入れると驚くほど新しい思考方法が活用可能となることを見出した。

ドナタ・スコーラー博士([Dr. Donata Schoeller](#))はジェンドリンの修士論文であるプロセスモデル(*A Process Model*) を(クリスチャン・ガイザー-Christiane Geiser と共に)ドイツ語に翻訳した哲



学の教授である。彼女は国際フォーカシング研究所の国際指導委員の一人でもある。彼女はジェンドリンについて次のように述べている:

ジーン・ジェンドリンは今日あるようなエンボディメントに取り組むことを見出したパイオニアであった。彼はその他の哲学者たちが現実離れした内容であった時に社会的問題に哲学を持ち込んでいた。彼は主流であった心身二元論を単に批判するのではなく、こころとからだで思考することの意味を実証した。哲学者たちは今や哲学的実践を議論するが、実はジェンドリンが彼の偉大な業績であるプロセスモデルやシンキング・アット・ジ・エッジ(*Thinking at the Edge*)の開発を通してもう行っていたことであった。

若き哲学者である私にとって、彼が成した哲学で実存的な重大性を理解することは素晴らしい体験であった。彼が自分の研究の執筆に 30 年もかけてように、彼は簡単な課題で妥協はしなかった。彼は自身の研究に忠実であるためには学術的な称賛を喜んで放棄する人であった。

### シンキング・アット・ジ・エッジ (THINKING AT THE EDGE)

1968 年から 1995 年に、ジェンドリンはシカゴ大学で哲学と心理学の教鞭をとっていた。そこで彼は理論立て (theory-building) の講座を担当し、後に彼が TAE ([“Thinking at the Edge”](#)) と呼ぶ実践を形成することとなった。TAE は新たな理論や概念を創造するためにあるテーマについて概念的にはなく、体験的に知っていることを表現する 14 のステップからなる方法である。

### 私生活

ジェンドリンはユダヤ人としてオーストリアのウィーンで 1926 年 12 月 25 日に誕生した。彼は当時ユダヤ人の居住地として知られるウィーン第 9 地区で両親と暮らしていた。彼の父親

ユージン T. ジェンドリン 1926 年 12 月 25 日 - 2017 年 5 月 1 日 国際フォーカシング研究所

は化学博士であり、ドライクリーニングの仕事をしていた。ナチズムの台頭により、彼の家族はオーストラリアを離れることとなった。彼らは最初オランダへと逃亡し、後の 1939 年 1 月 11 日ニューヨーク着の客船パリ ([SS Paris](#)) の最終渡航で両親とアメリカに移った。彼はアメリカ国民となるべく、アメリカ海軍で勤めた。

シカゴ大学を離れて、ジェンドリンと彼の妻であるメアリー・ヘンドリクス・ジェンドリン ([Mary Hendricks-Gendlin](#)) は 1996 年にニューヨークに転居した。メアリーはジェンドリンの近くで働き、長年フォーカシング研究所の所長を務めた。そして 2015 年 3 月に亡くなった。

ジェンドリンはエリサ・ジェンドリン [Elissa Gendlin](#) (メアリー・ヘンドリクス・ジェンドリンとの結婚から) と、ゲリー・ジェンドリン [Gerry Gendlin](#) およびジュディス・ジョーンズ [Judith Jones](#) (どちらもフランシス・ジェンドリン [Frances Gendlin](#) との結婚から) の 3 人の子どもに支えられて生きてきた。

## 受賞

1970 年 : アメリカ心理学会第 9 部門(心理療法部門)より「心理学および心理療法における専門心理学者栄誉賞(Distinguished Professional Award in Psychology and Psychotherapy)」

2000 年:アメリカ心理学会第 32 部門(人間性心理学部門)より「シャーロットおよびカール・ビューラー賞(Charlotte and Karl Bühler Award)」(ジェンドリンとフォーカシング研究所の共同受賞)

ユージン T. ジェンドリン 1926 年 12 月 25 日 – 2017 年 5 月 1 日 国際フォーカシング研究所

2007 年: ヴィクトール・フランクル家財団より「意味を思考する人間性心理学の分野での傑出した業績に贈るウィーン市のヴィクトール・フランクル賞 (Viktor Frankl Award of the City of Vienna for outstanding achievements in the field of meaning-oriented humanistic psychotherapy)」

2011 年: アメリカ心理学会第 24 部門 (理論的および哲学的心理学部門) より「心理学への理論的および哲学的貢献への栄誉賞 (Distinguished Theoretical and Philosophical Contributions to Psychology)」

2016 年: パーソンセンタードおよび体験的心理療法・カウンセリング国際学会より「特別功労賞 (Lifetime Achievement)」

2016 年: アメリカ身体心理学会より「特別功労賞 (Lifetime Achievement)」

さらに詳しい情報:

キャサリン・トーパー (国際フォーカシング研究所所長)

事務所 (845) 480-5111

携帯電話 (646) 462-9612